

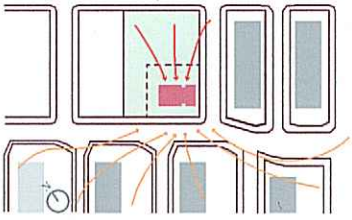
0. 積み上げられた歴史と新たなスタート

団地の建て替えとともに 60 年の歴史に幕を閉じ、新たなスタートを切る府宮羽倉崎住宅。戸建てともマンションとも違う、団地ならではの積み上げられた歴史と集まって暮らす豊かさを再認識出来るような集会所を目指します。



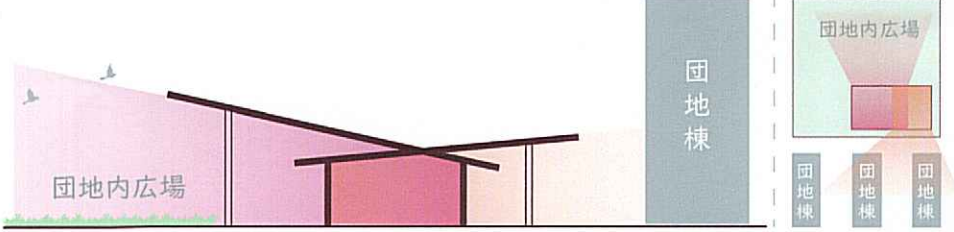
1. かさねて、つなげる2つの屋根

敷地南側に広がる団地棟と、北側の広場とを繋ぐように配置された計画地。多面性のあるファサードとすることで、一方向ではなく、団地から広場まで、より多くの住民に開かれた場にすることを意図しました。

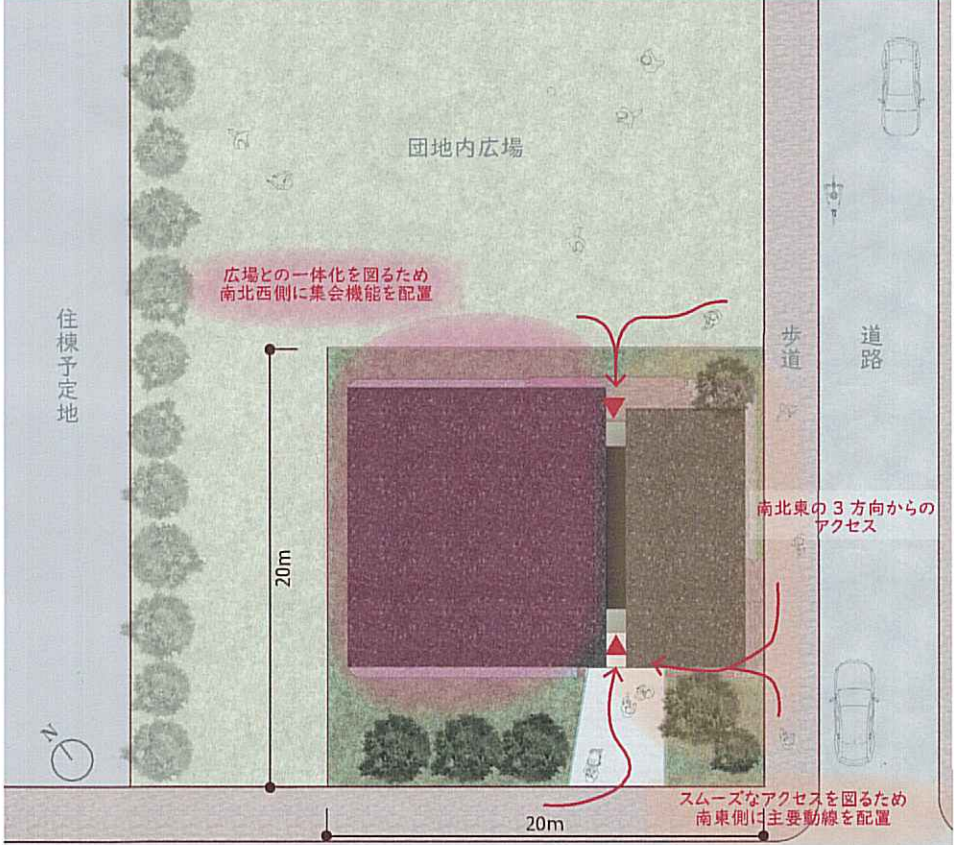


団地と広場をつなぐ南北からのアプローチ

団地方向と広場方向の屋根にそれぞれ角度を与え、双方にとって迎えられていると感じてもらえるような立面計画としました。2つのレイヤーが重なる集会所では、多様なつながりを誘発させます。屋根の延長線が団地と広場に被さるように、新たなシンボルとして団地住民を包み込みます。



2. 配置図兼屋根伏図 S=1/300



3. 団地住民の声・利用者へのメッセージ

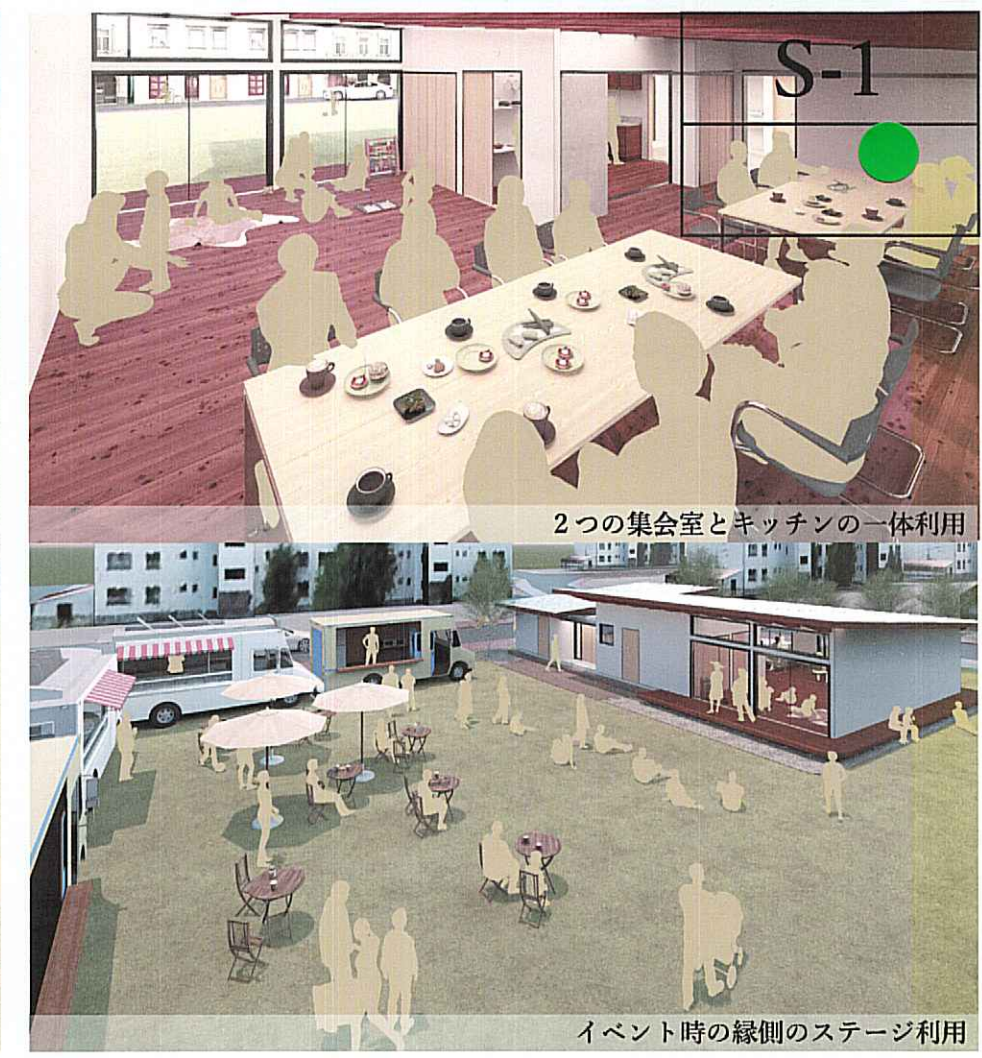
敷地調査を行った際などに気さくに声をかけてくださった団地住民の方々に、簡単にヒアリングを行いました。下記のは複数の方から意見があった内の一部ですが、実際の設計にあたっては、より多くの住民の方の意見を聞き、理想の集会所について、ともに考えていきたいと思ひます。

- 大人数で団らん出来るようなまとまったスペースがほしい**
間仕切りを開けることで、集会室・キッチン・縁側までもが一つの大きな空間として使用できるようにしました。
- 日常的に皆が利用できる場所にしてほしい**
施錠・解放に関係なく深い軒下空間を日々の憩いの場として利用できます。
- 災害などに備えて大きめの倉庫が欲しい**
倉庫・物入を大きめに計画し、内外から使いやすくなりました。
- 手入れが大変なので植栽は少なめでいい**
こまめな手入れが必要な植栽は配置せず、維持管理を容易にしました。

8. 施工・維持管理への工夫

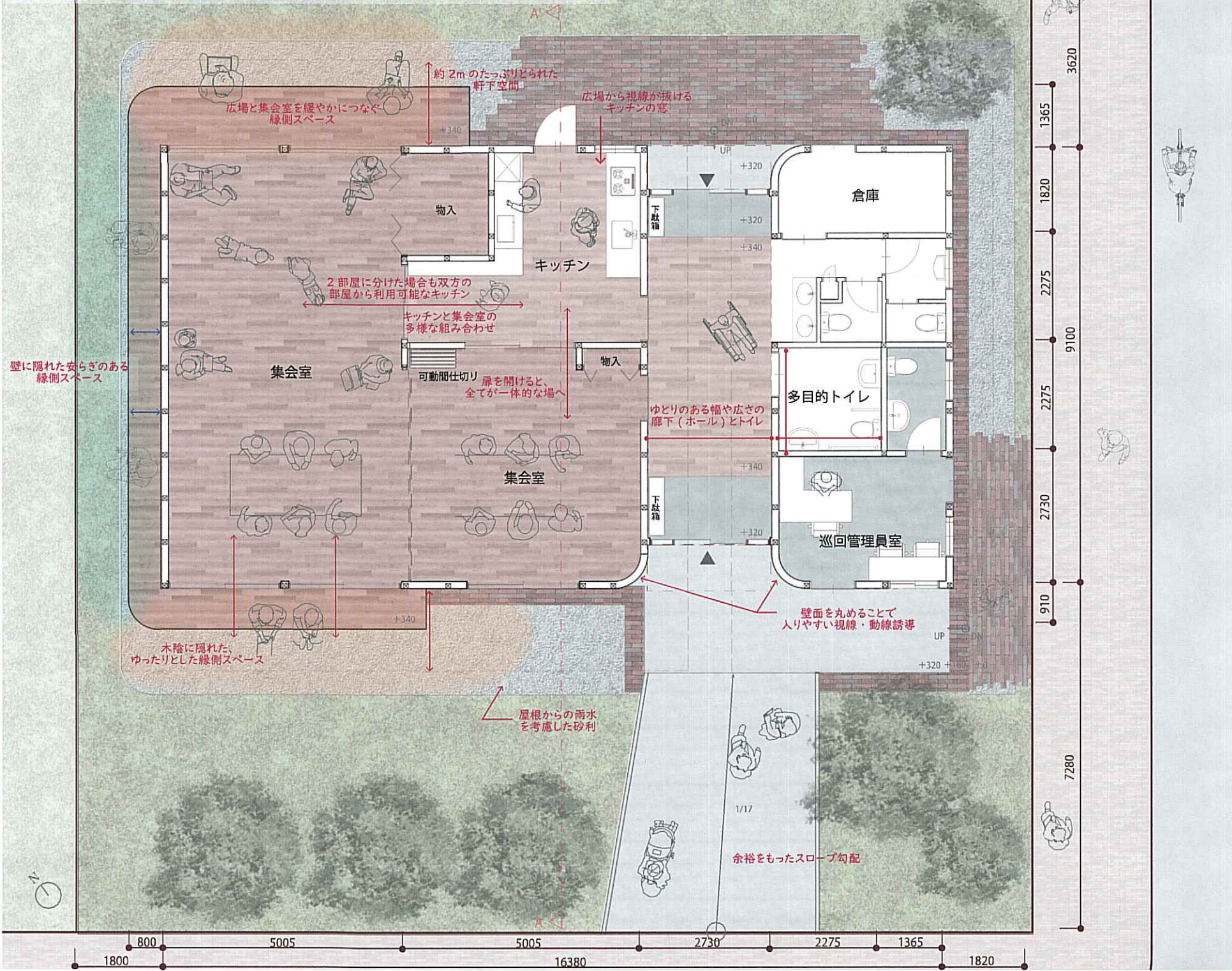
床面積	144.4 m ²	・2 m程軒を出すことで、南側室内への日射をコントロールし空調負荷を低減します。また、壁や縁側の汚れを低減し、綺麗な状態を保ちます。
集会室	74.6 m ²	
キッチンホール	16.4 m ²	
巡回管理室	13.0 m ²	
倉庫	6.5 m ²	・屋根勾配を利用して、屋根の中または屋根裏に通気層をつくることで自然換気を促します。
構造	木造軸組み	
外壁仕上げ	モルタル左官仕上げ (アクリル系塗装)	・場合によっては、全熱交換器を取り付け、更なる空調負荷の低減を図ります。
屋根	ガルバリウム鋼板	

人と / 時間と / 場所のかさなり / つながり



4. 平面図 S=1/100

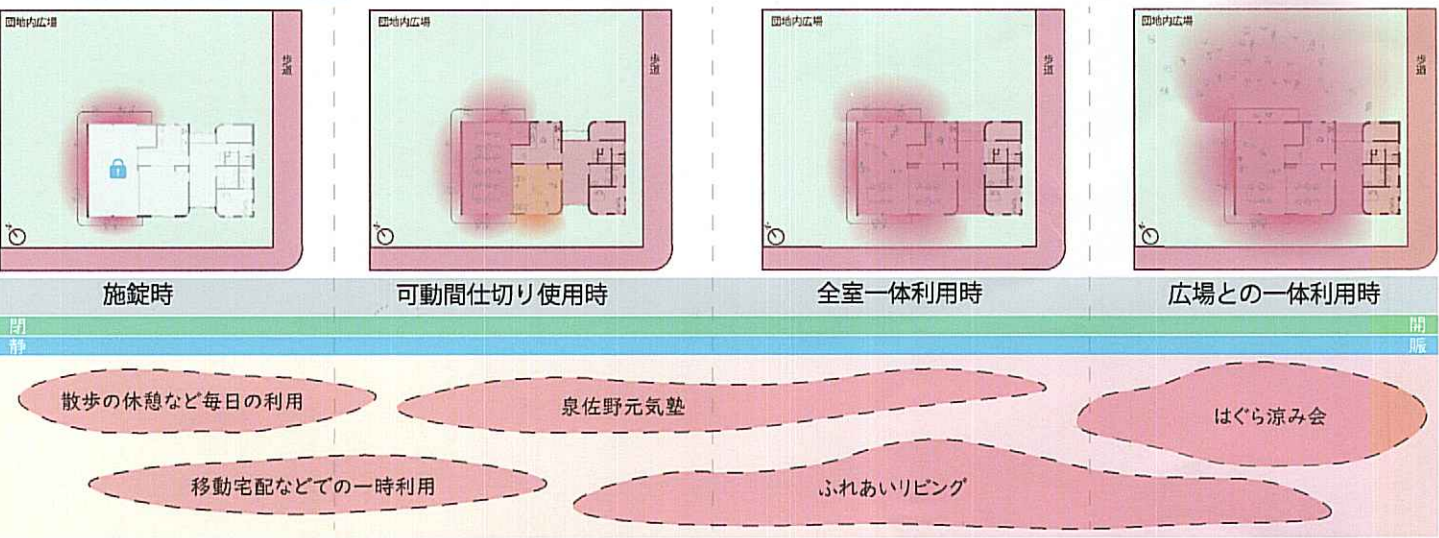
大きな集まりから小さな集まりまで、多様な距離感を生む平面計画



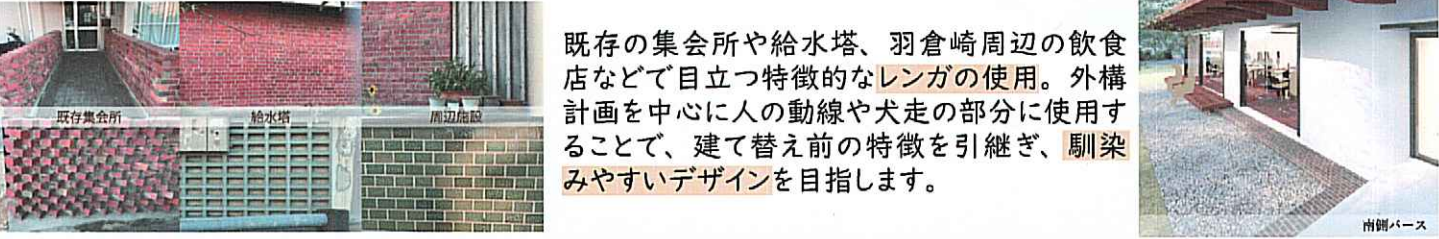
5. 利用用途に応じて伸び縮みする平面計画

深い軒が2つの屋根が、日常から大きなイベントまでもを包み込みます

深い軒と3方向にわたる縁側によって、施錠時でも日差しや雨をしのげる団地の憩いの場として住民を迎え入れます。また間仕切りや扉の利用によって、2つの集会室とキッチンの関係性を変化させ、「はぐら涼み会」などの大きなイベント時には広場までもを巻き込む一体利用を可能とします。

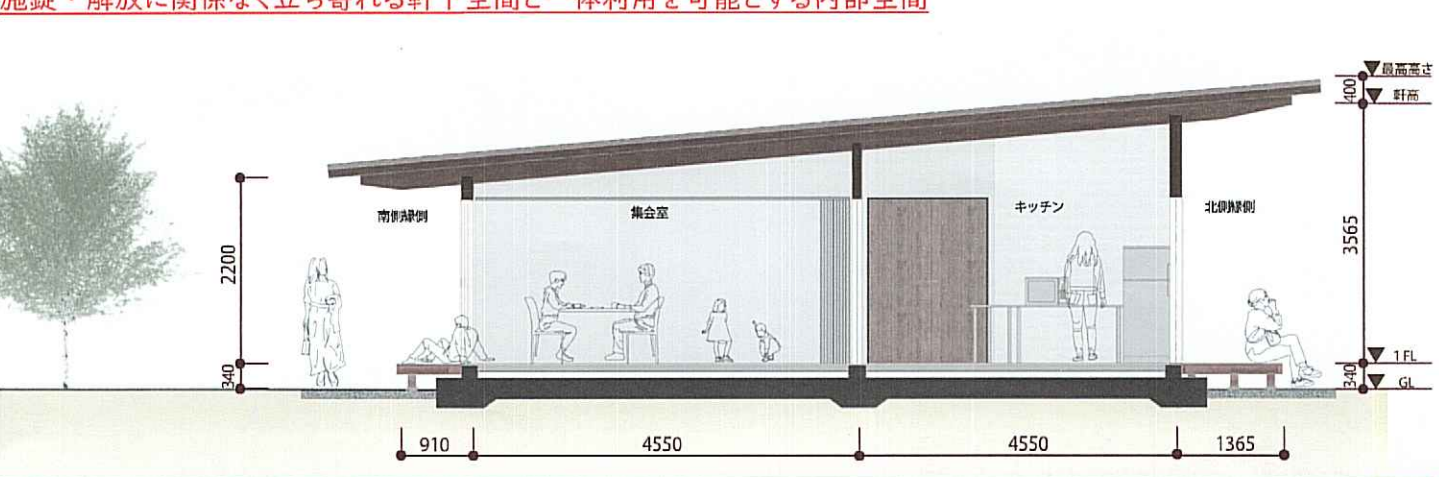


6. 時間をつなぐレンガ積みの外構計画



7. A-A' 断面図 S=1/100

施錠・解放に関係なく立ち寄れる軒下空間と一体利用を可能とする内部空間



9. 南・東側立面図 S=1/100

